

# 平成28年度学校自己評価システムシート (県立三郷特別支援学校)

目指す学校像	児童生徒・保護者及び地域社会の期待に応え、信頼される元気な学校
--------	---------------------------------

重点目標	1 個別の指導計画に基づく授業の充実・改善 2 開かれた学校づくりと特別支援教育のセンター的機能の発揮 3 進路指導の充実 4 安心・安全・信頼を柱とする学校の基盤強化
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	7名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	保護者と連携した教育支援プランA・Bを立てるとともに、授業研究や事例研究を通して授業改善を進めている。今年度はさらに合意形成を踏まえた教育計画・実践について、保護者との連携を深められる方策を検討していく必要がある。	・教育支援プランA・Bのもとで、継続した授業改善を行う。	①教育支援プランA・Bについて、保護者の理解や合意形成が深められる書き方や説明の仕方について検討していく。 ②校内で取り組んでいる様々な授業について、研究授業・授業実践や指導法の研究等を通して授業改善を行う。	①プランA・Bにおいて、わかりやすい書き方や説明の仕方についての方策が検討できたか。 ②学部研修会や自主研修を計画的に実施するとともに、実践や研修・検討を通じて授業改善ができたか。	プランの書き方の検討や授業改善を行うことができた。 ①保護者のアンケートや面談の報告を受け、プランA・Bの記載についての検討を行った。 ②全体研修・学部研修・個人研修により、授業改善を行うことができた。	A	・本年度は「差別解消法」の施行により「合理的配慮の実施内容」をプランAに加えた。実施内容の実現に向けて、更に校内で検討改善していく。 ・本年度の授業実践の総括を通じて、授業改善を継続して行う。
2	本校の活動を広く紹介するとともに、地域の特別支援教育に関する相談に応じることにより、開かれた学校づくりを推進している。今年度は昨年整理したホームページを更に見やすくするように改善する。	・開かれた学校づくりを推進する。	①昨年度整理したホームページを発展させ、より見やすく更新しやすいホームページになるように改善する。 ②学校が行っている活動について地域に広く紹介し、センター的機能についての理解を進める。	①ホームページのデザインを見やすく統一し、更新しやすいようなフォーマットを作成することができたか。 ②特別支援教育コーディネーターをはじめ、学校の活動を地域に広く紹介することができたか。	開かれた学校づくりが着実に進んでいる。 ①ホームページのレイアウトやメニューを見やすく改善した。 ②関係機関との連携の強化や地域の行事への参加により、積極的な紹介活動が行えた。	B	・更なるホームページ更新を望む声がある。更新の効率化に向けて校内体制を検討する。 ・学校行事等の紹介のPR度には地域差が有る。PR度の低い地域に対して積極的に紹介を行う。
3	キャリア教育の観点に基づき、自立に向けた長期的な進路意識の育成を行っている。また、保護者への情報提供も随時行っている。今後は、キャリア教育の系統性を図ることと保護者へのニーズに応じた情報提供が課題である。	・児童生徒の発達段階に応じた進路意識を育成する。	①キャリア教育の観点における、小学部から高等部を通じた系統的な進路指導を推進する。 ②保護者と連携を深めるために保護者のニーズを検討し、保護者が求める進路についての情報を提供する。	①昨年度提案した「12年間を見通した各学部の進路に関する学習の流れ」について、理解が深められたか。 ②保護者が必要とする進路についての情報を、保護者に提供することができたか。	キャリア教育の観点による進路指導が進展した。 ①学部等において、3年間を通じた進路学習の活用が進んだ。 ②保護者への情報提供が進み、保護者アンケートによる肯定的意見が増加した。	A	・キャリア教育については研修等により、校内の理解が進んだ。更に本校独自のキャリア教育のあり方を検討する。 ・肯定的意見は増加したが、様々な情報提供を求める声がある。可能な範囲で情報提供を拡大していく。
4	引取り訓練などの災害訓練や、アレルギー対応のガイドラインが作成され、安心・安全の教育環境づくりが進んでいる。今後も様々な災害や事故等の状況を想定しながら、より実践的な方法を検討していく必要がある。	・安心・安全な教育環境づくりを進める。	①緊急メールの活用について保護者に紹介し、更に有効な活用方法について検討していく。 ②校内での怪我の発生場所や時間等の状況を把握し、校内の安全・安心な指導について検討する。	①緊急メールの活用について、保護者への理解を深めることができたか。 ②校内での怪我の状況をデータ化し、傾向を分析できたか。	避難訓練や引取り訓練を通じて、安全教育を進めることができた。 ①保護者の要望を受け、ソフトウェナ情報の配信にもメールを活用した。 ②校内の怪我のデータ化により、怪我の状況を把握することができた。	B	・緊急メールの活用が進んでいる。来年度はメールの配信状況が確認管理できるように変更する。 ・緊急時の備蓄品には不安がある。本年度に引き続き、来年度も備蓄品の購入を進めていく必要がある。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成29年2月13日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「合理的配慮」に関して学校側の取り組みと保護者側の理解度には温度差があるが、既に個々の児童生徒に対応してくれているので、安心している。「指導に対する要望」と「合理的配慮」が分かりにくいので、どのように線引きし、保護者に説明していくのが課題となる。</li> <li>・来年度以降も広い面において、充実した研修を目指してほしい。</li> <li>・ホームページは見やすくなり、以前よりも情報量が増えた。スマートフォンでの画面は改善してほしい。</li> <li>・サマースクールやクリスマス会などで、文教大学のボランティアは保護者から好評だった。</li> <li>・センター的機能はこれからもとても重要になる。依頼数は今後も増加すると思うが、支援をお願いしたい。</li> <li>・進路説明会の資料について、担任から説明があったことで、進路について質問するとてもよい機会となった。</li> <li>・企業就労と施設就労の進め方が大きく異なるため、保護者にとって非常に分かりにくいものになっている。個人の情報に留意しつつ、情報公開を広く行ってほしい。</li> <li>・メールの受信回数は増えてしまうが、学部やバス便が明記されたインフルエンザなどの情報が手に入るので助かっている。</li> <li>・防災備蓄の量が全く足りていない。</li> <li>・学校だけではなく、家庭を巻き込んだ大規模災害への取り組みが必要。</li> </ul>	